

峯山富美氏（元「小樽運河を守る会」会長）日本建築学会文化賞受賞記念

日本建築学会北海道支部創立60周年記念

日本都市計画学会北海道支部設立記念

シンポジウム 小樽運河と石造倉庫群の 保存運動から 何を受け継ぐか

地域に生き、地域を守る～まちづくり運動の先駆者
峯山富美氏が伝えること

私はこの町の生まれではない。しかし、人生の大半をこの町で過ごしている。やがてこの町で生涯を終えるだろう。それは私にとって、このうえもない幸せと思っている。

青々と広がる海は対岸に増毛の連山を望む天然の良港である。町を囲む美しい山並み、起伏に富んだ坂の町の面白さは多くの市民の認めるところ。そして庶民性豊かな人々の暮らし、粗野ではあるがあたたかい人情の町、住む者にとって快適な町である。

かつては海運、漁業、商業と道内きっての経済都市として繁栄をきわめた。重厚な建物が建ち、ウォール街とうたわれた素晴らしい町並みや、優れた文化を遺した。その繁栄をもたらしたのが、運河と倉庫のある一帯であった。

峯山富美「地域に生きる 小樽運河と共に」より

日時：平成20年11月7日（金）

開場 / 14時30分

開始 / 15時00分 終了 / 18時30分（予定）

会場：小樽市民センター マリンホール
（小樽市色内2丁目13番5号）

定員：450名

参加費：無料

主催 日本建築学会北海道支部, 日本都市計画学会北海道支部

共催 日本建築学会都市計画本委員会, 小樽再生フォーラム, 小樽市

協賛 アトリエブク, 岩田地崎建設, キタバ・ランドスケープ・プランニング,
大成建設札幌支店, ドーコン, ノーザンクロス, ホルス（五十音順）

問合せ 日本建築学会北海道支部

〒060-0004 札幌市中央区北4条西3丁目1 北海道建設会館6階

TEL 011-219-0702 FAX 011-219-0765

E-mail aij-hkd@themis.ocn.ne.jp

「ふるさとは 近くにおいて 守るもの」

みねやま ふみ
● 峯山 富美

1914年虻田郡真狩村生まれ。1924年小樽へ転居。1931年庁立小樽高等女学校補習師範科卒業、三菱商事入社。1944年に小樽を離れるが1955年に戻り北手宮小学校に勤務。1975年小樽運河を守る会設立と同時に副会長、1978年に会長就任。1984年会長を辞任。1987年小樽再生フォーラム顧問に就任、現在に至る。



運動の意義を再認識する いままでの小樽, これからの小樽を考える これからの都市計画, まちづくりを展望する

小樽運河と石造倉庫群の保存に関わる市民運動は、昭和50年の「小樽運河を守る会」発足から峯山富美氏が会長を辞任する昭和59年までの10年間に多様かつ活発に展開され、その意義は、運動の実質的な終結後20年以上を経過した今日においても薄れることなく、小樽はもとより全国のまちづくりに大きな影響を与え続けている。

このシンポジウムでは、保存運動が果たした小樽の歴史上の役割を、まちの構造・景観、市民意識、人材育成、行政姿勢、産業などの面から捉えると

ともに、この成果を活かした今後の小樽のまちづくりの方向を展望する。

都市の安定あるいは縮小の時代において、環境共生、市民主導、広範な主体の合意と協働、既存ストックの再生、投資効果の最大化などを重視する新しい都市計画の理念が模索されている。

保存運動は、これら今日的課題への取り組みを先駆的に問うものでもあった。この事例が、今後の都市計画、まちづくりにどのような示唆を与えるかを考える。

プログラム (敬称略)

● 第一部 保存運動・・・市民の葛藤、行政の葛藤

- 基調報告 「保存運動の経過と成果」 堀川 三郎 (法政大学社会学部 教授)
- 講演 「保存運動が遺したもの」 峯山 富美 (元 小樽運河を守る会 会長)

● 第二部 まちづくりの展望・・・受け継ぐべきもの

- パネルディスカッション

コーディネーター

こばやし ひでつぐ

小林 英嗣 (北海道大学大学院 教授)

1946年生れ。専門は都市環境計画学・都市デザイン。北海道大学大学院工学研究科修士課程終了。同大学助手、助教授を経て現職。ハバリアナ教皇大学(コロンビア)招聘教授、同済大学(中国)客員教授、北海道都市計画審議会会長、北海道景観審議会会長、札幌市都市景観審議会会長、札幌市都市計画審議会委員などを歴任。都市建築設計、都市空間計画、コミュニティデザイン、まちづくりなど広範囲の領域で臨床的に行動・研究活動を展開している。

にしむら ゆきお

西村 幸夫 (東京大学大学院 教授)

1952年生れ。専門は都市計画、都市保全計画、都市景観計画、市民主体のまちづくり論など。東京大学都市工学科卒、同大学院修了。明治大学助手、東京大学助教授を経て現職。フランス国立社会科学高等研究院客員教授、世界遺産記念物会議副会長、文化審議会専門委員、同世界遺産特別委員会委員、交通政策審議会臨時委員、財政制度等審議会臨時委員、岐阜県景観審議会会長、三重県景観審議会会長、千代田区景観まちづくり審議会会長などを歴任。

やまくち たもつ

山口 保 (小樽市議会議員)

1947年生れ。立命館大学法学部中退後、京都日仏学院を経て、渡欧。在仏一年のち、スウェーデンにて移動チホリの看板画工として就労。1975年より小樽市在住。小樽運河を守る会幹事会・幹事、ポートフェスティバル創立委員、小樽運河百人委員会創設、代表運営委員および小樽運河五者会談委員、第1~3回小樽・雪あかりの路実行委員会事務局長などを歴任。2003年より小樽市議会議員。

パネリスト

しのはら おさむ

篠原 修 (政策研究大学院大学 教授)

1945年生れ。専門は景観デザイン、設計・計画思想史。東京大学工学系大学院修士課程終了。アーバンインダストリー、東京大学農学部林学科助手、建設省土木研究所、東京大学農学部林学科助教授、同大学工学部土木工学科助教授、教授を経て現職。桑名住吉入江(三重県)、津和野川(鳥取県)、長崎水辺の森公園・橋梁群(長崎県)、駅前通地下歩行空間、創成川(札幌市)など、多くの土木系構造物の設計指導・監修を行なっている。

ほりかわ さぶろう

堀川 三郎 (法政大学社会学部 教授)

1962年生れ。専門は環境社会学、都市社会学。慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了。慶應義塾大学非常勤講師、千葉大学助手、東京大学客員助教授などを経て現職。1984年から小樽運河保存運動とまちづくりについての調査研究を継続中。1997年以降は、小樽の歴史的景観の定点観測調査や、土地所有権の歴史的変遷の調査も行っている。

やまもと しんや

山本 真也 (函館市 都市建設部長)

1954年生れ。北海道大学工学部建築工学科卒業。1978年函館市採用、都市建設部工営課、都市計画課、都市景観保存対策事務局、景観保全課、住宅課計画係長、街づくり推進課長、企画部企画管理課長、企画部次長を経て現職。北海道教育大学教育学部函館校非常勤講師(社会参加実践論)、北海道景観審議会委員。